

# 平成 30 年度の市民部会の活動進捗報告

## 1. 市民部会の運営体制

流域圏住民・関係者の連携強化のための方策のため、望ましい組織体制の検討を行った。昨年度の全体会議において、設立 10 年以降の体制について以下の点についての修正を事務局より提案した。

- ・『市民部会』の実施 | 『市民会議』からの呼称変更
- ・『合同部会 WG』の開催

## 2. 活動実績

矢作川流域圏懇談会は、市民の視点で開催することに意義があるという当初の考え方から、これまで『市民会議』という名称で会が開催されてきた。一方で、話し合いの場として『会議』という呼称が堅苦しいという点、そして地域部会と同列に扱うことを目的として『市民部会』という呼称に変更した。今年度からの試みとして設定され、下記の通り 3 回の部会 WG が実施された。

活動内容	日時	場所	議題
第 1 回WG 16 名参加	8 月 30 日 (木) 14:00-16:00	豊田市崇化館交流館 4 階 第 2 会議室	○流域連携テーマ・イベントの活動実績振り返り ○これからの市民部会のあり方について
第 2 回WG 16 名参加	10 月 23 日 (火) 14:00-17:00	豊田市崇化館交流館 4 階 第 2 会議室	○流域情報のマッピングによる可視化 WS ○市民部会が期待する流域圏のあり方について ○流域連携に向けた意見交換
第 3 回WG 11 名参加	12 月 14 日 (金) 14:00-17:00	豊田市崇化館交流館 3 階 第 1 研修室	○流域マップの意見整理 WS ○連携テーマ（標語）の作成 ○課題の整理 ○次年度以降の方向性について

※参加人数は事務局含む

### 3. 市民部会 平成 30 年度の活動成果 まとめ

#### これまでの活動の振り返り

- ・「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の 3 つの連携テーマにおける活動を振り返り、流域市民の視点で意見交換を行った。
- ・市民が矢作川流域の情報に触れる機会が少ないことが課題として共有された。



第 2 回市民部会 WG の様子

#### 流域マップの作成

- ・矢作川の情報を発信するために、矢作川流域の優れた点や問題点など、市民目線の様々な意見を地図上に列記し、空間的に情報を把握できる流域マップを作成した。
- ・流域全体に矢作川流域の良いことから悪いことまで様々な意見が散在していることを再認識した。



第 2 回市民部会 WG の様子

#### 3 つの連携テーマを代表する標語の作成

- ・流域連携の方向性を明確にするため、当初の 3 つの流域連携テーマを 1 つのテーマで代表できるように、標語を作成した。矢作川の恵み・大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指すというキーワードを盛り込んだ。

山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる  
～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

#### 矢作川の流域情報のカテゴライズ

- ・矢作川の情報について、良い点、悪い点、将来を見据えた意見等について時系列的にカテゴライズした。
- ・現在の良い点・悪い点、今後解決していかなくてはならない課題が多いことを再認識した。
- ・過去の良い点を求めるのではなく、過去から学び、新たな矢作川の再構築の必要性を共有した。

	過去	現在	将来
良い点	ネコギギ、カワセミ、シャコ、アサリが多く生息 湧水が多かった	土砂災害の減少 環境教育林の整備 郷土料理（アユ・自然薯）が食べられる 水源の清流で水と親しむ場が誕生	他の河川流域住民との交流 用水路・支川の利用方法の検討 矢作ダムを撤去したときのメリット・デメリット
悪い点	ヘドロの蓄積 生物の生息データの記録が乏しい	水質（SiO <sub>2</sub> 等）の悪化 河川の樹林化・荒廃 外来生物の増加 山の手入れ不足 農林業の衰退・後継者不足	水量の減少 中流～下流 中流 獣害の増加

#### 今後の市民部会の活動方針（案）

- ・各地域部会の話題や課題を拾い出す。
- ・課題解決に向けて、合同部会の開催の提言や各地域部会への情報発信を行う場としていきたい。
- ・地域部会（山・川・海）に横串を通す存在となる。
- ・市民部会の提案で泊まりの研修や合同部会、エクスカージョンを開催できたらよい。



流域マップ（下流・河口域抜粋）

# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 市民部会編 vol.1



発行日：平成 30 年 10 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆ 第 1 回市民部会を開催しました！

より市民目線での活動を活発にするため、今年度より市民会議から市民部会という名称でリニューアルいたしました。今回の WG では、これまでの流域連携テーマやイベントの活動状況、今後の活動方針についての意見交換を行いました。

日 時：平成 30 年 8 月 30 日（木）14:00～16:00  
会議場所：豊田市崇化館交流館 4 階 第 2 会議室  
参加者：16 名（事務局含む）



## ◆ 主な会議内容

### 1. 昨年度までの流域連携テーマとイベントの実施状況・今年度の連携イベント日程について

#### 流域連携テーマ①：ごみ・流木

●昨年度は奈佐の浜プロジェクト委員会が開催した「藤前干潟エクスカージョン」に参加しました。この活動では藤前干潟での清掃活動や名古屋市のごみ焼却施設の見学を行い、ごみを通じて地域の環境を学びました。愛知県主催の「海ごみ減らそうフォーラム」では、猿渡川・家下川でのワークショップを通してごみの実態を確認するとともに、ごみの削減方法についてグループ討議を行いました。

#### 流域連携テーマ③：木づかい

●木づかいライブ・スギガラキャラバンにおいて、流域内外で約 40 回（平成 29 年度実績）におよぶ木づかい推進を行いました。昨年度の矢作川感謝祭では、林業に関する歌の披露や高性能林業機械の実演、動く木のおもちゃの展示を行い、地域住民の方に親しまれました。さらに、流域ものさしの活用事例が山部会 WG 等で報告されました。

#### 流域連携テーマ②：土砂

●川部会や海部会の WG で阿摺ダムにおけるアユの生息環境改善実験の視察を行い、河床のアーマーコート化の改善や生物相の回復状況について意見交換を行いました。また、豊橋河川事務所が取り組んでいる総合土砂管理の現状と、今後の方針について意見交換を行いました。総合土砂管理は、土砂が発生する上流山地から土砂が流出する河口部や海岸までの流域全体の問題を解決していくことを目的としています。今後は総合土砂管理計画の策定に向けて、10 個の検討項目の解決を目指しています。この中で、矢作ダムから土砂を排出するための方法の一つとして考案されている土砂バイパスについて注目が集まりました。

#### 流域連携イベント

●矢作川流域圏事例集交流会	平成 30 年 4 月 15 日
●矢作川感謝祭	平成 30 年 9 月 1-2 日
●三河湾大感謝祭	平成 30 年 10 月 28 日 予定



### 2. 市民部会の活動のあり方について

山・川・海の部会員が一堂に会し、矢作川流域で生活する住民の視点から、多様な話し合いが進められました。その中で、地域住民が矢作川の情報に触れる機会が少ないことが課題として抽出されました。このことから、情報を発信できる場を市民部会で作成したいという意見があげられました。大きなイベントや体験学習、SNS を用いるなど、様々な手段が提案され、情報の発信方法の検討は今後の活動の中心になると考えられます。

次回の市民部会では、良い面と悪い面を併記した形で矢作川流域圏の現状を表現することを目的としたワークショップ形式での部会の開催を予定しています。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●昨年度までの流域連携テーマとイベントの実施状況・今年度の連携イベント日程について

- ・草を刈り、竹を伐っていると、一般の人がごみを捨てなくなるため、河川沿いのごみは減ってきている。(伊奈)
- ・流木は切り捨て間伐で捨てられた木もしくは土砂崩れによる倒木、ごみは人間の出したものが大きな構成要素であると考えられ、何が悪影響を与えているのかを明らかにして議論を進める必要がある。(高橋)
- ・ごみが大量に出ている市域の住民にごみの問題を知ってもらうイベントを開催する意欲を示す必要がある。(山本孝)
- ・イベントだけではなく、草刈りや竹の間伐などの体験を通してごみの問題を認識できる場も必要である。(沖)
- ・土砂バイパスで大きな石を流すための工夫などは何か考えているのか。(井上)
  - ▶ 土砂バイパスでは、5cm程度の細かい土砂しか流れないため、それより大きなものは掘削して処理しようと考えている。具体的な処理方法は効率性を考慮しつつ検討していく予定である。(神本)
- ・ダム湖底に有機物が溜まっていると考えられるが、調査は進んでいるのか。(井上)
  - ▶ 過去に国土交通省が矢作ダムの湖底のボーリングを行い、堆積物の粒形や有機物の量を調査していた。定性的に有機物が多いという記載があったと思う。(内田)
- ・「総合土砂管理計画の技術的課題に対する検討委員会」におけるこれまでの議論の経過は公表しているのか。(浅田)
  - ▶ 豊橋河川事務所が公表している。(神本)
- ・矢作ダムにたまった土砂を山地に捨てていると聞いているが、その土砂を海に運ぶことも検討してほしい。(高橋)
  - ▶ 治水や利水に影響を与えないことを大前提として、実験を重ねて様々な方向性を検討していきたい。(神本)
- ・土砂バイパスによって土砂を流す際、水量や流速を調整するのか。(松井)
  - ▶ 可能な限り自然な環境に近づけられるよう、効率的な方法を試行錯誤しながら検討していく予定である。(神本)
- ・自分たちの木を使ってほしいのであれば、自ら行動し、木を見る楽しさを広める活動が重要である。(今村)
- ・総合的な矢作川の再構築には、公共事業による大規模な河川整備だけではなく、竹の間伐体験やごみ捨てをやめることなど、地域住民による活動も必要ではないか。(浅田)
- ・流域圏懇談会に関わってきて良かったと思うことは、岡崎市の林務行政が微動だが動き始めたこと。流域圏懇談会の山部会の活動が大きな原動力になっていると思う。(沖)

### ●市民部会の活動のあり方について

- ・三部会での考え方の方向性が十分に確立されていない。3つの流域連携テーマを統合し、その目標を代表するような標語を設定して取り組むのがよいのではないか。(光岡)
- ・いろんな場所で様々な問題が生じており、それぞれ望みも違うため、全体として見つめるべき理想形を目指して活動すべきだと思う。(光岡)
- ・市民部会の活動として、行政から許可を得て、もしくは事業として公的資金を獲得し、土砂実験を行うことも検討すべきである。(山本孝)
- ・流域圏での生活に不便を感じていない住民は、流域圏の問題について自発的に考えようとはしない。それらの住民に問題を提起する場が必要である。(山本孝)
- ・今の市民は様々な問題を知らされないで生活している。矢作川流域では、そういった問題の原因を解明するために、地域住民と一緒に考えるためのベースを作る必要がある。そのために、地域住民に対して情報を発信できるツールを作りたい。(山本黨)
- ・流域圏で生活する住民は、生態系を大事にして、人間の衣食住や生きるためのエネルギーをどう確保していくかという課題を解決する必要がある。(山本黨)



### ●振り返り

**よかったと思うこと：** 山川海が少しずつ連携する見通しができたこと。 / 流域連携の方法について少し進展があったこと。 / 自由に発言できていたこと。 **よくなかったと思うこと：** 時間不足。 **今後取り組んでいきたい活動など：** 情報発信。

### 今後の予定

#### ■第2回市民部会

日時：平成30年10月23日(火) 14:00~17:00 豊田市崇化館交流館4階 第2会議室



#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部  
TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

\* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 市民部会編 vol. 2



発行日：平成 30 年 11 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第2回市民部会を開催しました！

昨年度までの市民会議から、より市民目線で自由に発言できる場をめざして市民部会という名称にリニューアルしました。今回のWGでは、ワークショップ形式で流域の良い面、悪い面を流域マップに示し、今後の議論のための可視化を試みました。

日時：平成 30 年 10 月 23 日（火） 14:00～17:00  
会議場所：豊田市崇化館交流館 4 階 第 2 会議室  
参加者：16 名（事務局含む）



## ◆主な会議内容

### 1. 最近の懇談会の進捗報告

#### 【第1回合同部会】8月24日

岡崎市で合同部会が実施されました。矢作川流域に関する科学的な研究成果、特に矢作川の水質について情報共有しました。矢作川の長期的な変化や上下流の問題・課題を改めて認識することができました。

#### 【第1回市民部会】8月30日

豊田市で市民部会が実施されました。これまで、市民部会として「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマについて議論されてきましたが、改めて上下流の優れた点や問題点について、形に残してはどうかという意見が出ました。そのため、次回の第2回市民部会では、ワークショップ形式で意見交換を行うことになりました。

#### 【矢作川感謝祭2018】9月2日

豊田市千石公園において矢作川感謝祭が行われました。今回は流域4つの森林組合（恵那・根羽・豊田・岡崎）による出展に加え、東幡豆漁協石川組合長による海の生き物の展示が行われ、流域一体化を意識することができました。

#### 【第5回三河湾大感謝祭】10月28日

蒲郡市民会館において三河湾大感謝祭が行われ、木のおもちゃの展示などにより、三河湾につながる上流域の山の情報を発信しました。

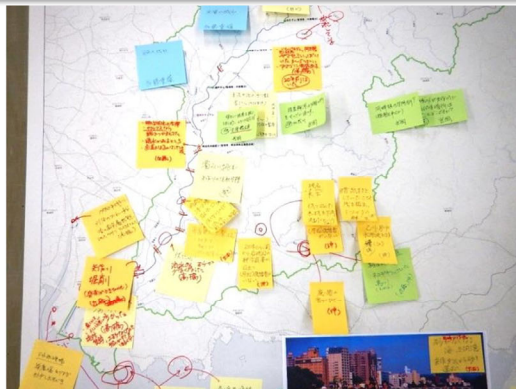
### 2. ワークショップ

前回の市民部会では山・川・海の部会員が一堂に会し、矢作川流域で生活する住民の視点から、多様な話し合いが進められました。その中で、地域住民が矢作川の情報に触れる機会が少ないことが課題として抽出され、情報を発信できる場を市民部会で作成したいという意見があげられました。大きなイベントや体験学習、SNS を用いるなど、さまざまな手段が提案され、情報の発信方法の検討は今後の活動の中心になると考えられます。

今回の市民部会では、ワークショップ形式で良い面と悪い面を併記した形で矢作川流域圏の現状をマップに示すことになりました。そして、出席者の思いを時間の許す限り語って、結果をとりまとめました。

### 3. まとめ ～市民部会が期待する流域圏のあり方について～

市民部会でも9年のまとめについて、これまでの市民部会（市民会議）で検討したことをしっかり整理しながら、何かに焦点をあてて、次年度につながる流れをつくる必要があります。出席者全員で、意見交換を行いました。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●最近の懇談会の進捗報告 (合同部会)

- ・「シジミ、アサリを増やす森と里からの湧水」と題して話題提供を行った。シジミやアサリは植物プランクトンが重要な餌となっているが、一言で植物プランクトンといっても緑藻と珪藻をはじめとするさまざまな藻類が含まれる。中でも特に栄養塩を豊富に含む珪藻が、シジミの生息に重要な役割を果たしていることがわかっている。窒素やリンが水中に溶けやすいのに対し、ケイ酸はガラス質として地表に固定されている。そのことが、ケイ酸を定量的に示すことができず、環境の指標に扱われにくい結果を招いている。(井上)
- ・ケイ酸の役割については初めて知ったことであり、非常に興味深く聞かせてもらった。(山本薫)
  - ▶ 薫さんが所有される田んぼのイネは、たくさんのケイ酸を吸収する。そのため、足りなくなるとケイ酸石灰肥料(ケイカル)で補う。ケイ酸石灰肥料を施すと、イモチ病などに強い個体を作ることができる。ケイ酸は、他の栄養素と違い過剰害がないという最大の特徴があり、非常に安全な物質である。(井上)

### ●ワークショップ

- ・矢作川の湧水(伏流水)の分布については経年的に調べられているのか。(高橋)
  - ▶ 昔は多かったが、だいぶ減ったと聞く。(加藤)
  - ▶ 安城市の住民によると、昔は少し家の周りを掘ると、簡単に水が湧いたとのこと。また、河川区域内は細い本川があり、ほとんど砂であった。(高橋)
- ・矢作川の象徴の一つは「百々の貯木場」である。その昔、川の役割として最も大事だったのは治水でも利水でもなく、木材運搬に利用された舟運であった。一般的な河川の歴史をみると、舟運が盛んな時代はダムが設置できない。次第に舟運が廃れ、鉄道に代わるようになるとダムが造られ、治水や利水の話がとりざたされるようになった。矢作川も他の河川と同様の歴史をたどっており、貯木場は貴重な遺産であると考えている。(近藤)
- ・碧南には水族館があって、昔は海であった。そこが矢作川の付け替えから土砂が流れて陸地化し、油ヶ淵ができて埋め立てをした。衣浦湾では豊かな海がなくなった歴史があり、水族館は豊かな海の代償としてつくられた。(近藤)
- ・矢作川水系では、国の天然記念物であるネコギギの減少が著しい。(近藤)
  - ▶ 額田の鳥川や雨山ダムにはネコギギが多かった。減少の主な原因は何か。(沖)
  - ▶ 大きな原因の一つに砂防工事があるといわれている。(近藤)
- ・昔の写真を見ると、矢作川は大河であり、広い河原があって、子どもたちが泳いでいて、見張の大人が近くにいる、堤防からみたら白い河原の風景であった。その後、ダムができて少し時間が経つと草が生い茂り、竹林が増え、大きな段差の下に川が流れるようになった。あれでは川に親しむ気にならない。自分の思いとしては、昔の河原が復活し、いかにも泳ぎたくなるような川に戻ることが望ましいと考えている。(内田)
- ・源流地域の見どころとして、サワラとブナの混交林である矢作川源流、茶臼山北面の森があげられる。また、上下流連携の山づくりというテーマで整備をしている矢作川源流の森(80年生くらいのスギ・ヒノキ)は、現在、環境教育林にしているという議論が生じている。他にも源流の森では、林業機械を使った搬出方法を示したモデル林、複数の自治体が特定の樹種を推奨する県産材トライアングル構想が進められている。(今村)
- ・私は、「矢作川への思いとして」とか、「矢作川の良さとして」とか、地域の人々が親しむことができる水辺をあげたいと思う。例えば、古岸水辺公園や久澄橋の左岸側が、それに該当する。また、河畔林の活用として成功している場所や景観として残すべき場所についても示していけたらいいと考えている。(光岡)
- ・額田には、紙すきをしていたと考えられるミツマタの群生地がある。また、伐った木を川から流していた場所として「木下(きくだし)」という地名が残っている。このような後世に残すべき内容や地名も残していきたいと思う。(沖)
- ・ダムにより濁水が長期化するなどの問題もある。ダムの撤去による長所短所を議論することも必要だと思う。(井上)
- ・矢作川の湧水や伏流水の今昔を考えたい。また、流域下水道の栄養塩類の削減と再放出についても確認したい。(高橋)
- ・魚の密度など経年的な調査が必要だと思う。また、川を一定の間隔で団体に貸し与えて管理させてはどうか。(菅原)
- ・中山間地の過疎の問題は、流域市民が自然に接しない生き方にある。自分は過疎にならないように、移住定住の促進に力を入れている。過疎化の防止が維持できなければ、流域全体が崩壊することは東海豪雨が証明している。シカやイノシシが増えたのは山奥まで人が行かなくなったためだ。林道なども山に行く人が少しずつ手直しをすれば、大きな災害にはならないと考えている。トヨタ自動車も山が荒れたら産業がダメになることはわかっている。(山本薫)
- ・やはり水量の減少が問題だと思う。それから、もう少し生き物に優しい魚道を整備してほしい。(加藤)

### ●まとめ(市民部会が期待する流域圏のあり方・今後の市民部会について)

- ・HPにアップされた地図を頼りに名所を巡っている人がある。市民目線で何か発信すれば、それを利用する市民はいると思う。(高橋)
- ・単に名所の紹介ではなく、流域圏の課題を浮き彫りにした地点選考が必要だ。(山本薫)
- ・今回の意見を図面にまとめて、次の部会でさらに検討を重ねていきたい。(事務局)

### 今後の予定

#### ■第3回市民部会

日時：平成30年12月14日(金)14:00~17:00 豊田市崇化館交流館3階 第1研修室



#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 市民部会編 vol. 3



発行日：平成 31 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆ 第 3 回市民部会を開催しました！

今回の WG では、第 2 回 WG のワークショップで挙げられた意見をカテゴライズし、矢作川流域の情報を整理しました。また、今後の市民部会の方向性を明確にするために、標語を作成しました。活動の最後には、市民部会（市民会議）の 9 年間のまとめを行い、今後の体制について意見交換を行いました。

日時：平成 30 年 12 月 14 日（金）14:00～17:00  
会議場所：豊田市崇化館交流館 3 階 第 1 研修室  
参加者：11 名（事務局含む）



## ◆ 主な会議内容

### 1. これまでの市民部会の進捗と第 3 回市民部会の目的



#### 【これまでの市民部会の進捗】

第 1 回市民部会では、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の 3 つのテーマについてこれまでの活動を振り返り、流域の市民目線で意見交換を行いました。その中で、市民が矢作川流域の情報に触れる機会が少ないことが課題として挙がりました。そのため、第 2 回市民部会では、流域の優れた点や問題点などの様々な意見を地図上に列記し、空間的に情報を把握できる流域マップを作成しました。

#### 【第 3 回市民部会の目的】

第 3 回市民部会では、矢作川流域に住む市民への情報発信に向けて、第 2 回市民部会で作成した流域マップ上の意見の整理を目的としました。そこで時間軸を基盤として、矢作川流域がこれまで歩んできた過去と現在にかけての良い点と悪い点、将来を見据えた意見についてカテゴライズを行いました。

また、9 年間の市民部会（市民会議）のまとめを行うとともに、今後の方向性を明確にするために標語の作成に取り組みました。

### 2. ワークショップ ～意見のカテゴライズ～



過去、現在、将来という一連の時間軸の中で、良い点と悪い点という大きく 2 つの枠に意見をカテゴライズしました。結果としては、過去の悪い点は最も少なく、過去の良い点、現在の良い点、現在の悪い点という順番で意見の数が多くなりました。将来については、今後評価していかなくてはならない意見が並びました。これにより、現在の悪い点が明らかになり、今後解決していかなくてはならない課題が多いこととその内容について再認識しました。一方で、過去の良い点を求めるのではなく、過去から学び、将来に向けた新たな矢作川の再構築が必要であることを共有しました。

### 3. ワークショップ ～市民部会の標語の作成～



#### 山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる ～新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の恵みにより人々の生活は成り立ち、流域圏内の産業が発展してきました。市民部会は矢作川の大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指すために、標語を作成しました。



### 4. 9 年間のまとめ



市民部会は、行政の方や学識経験者が参加していない市民を中心とした部会です。そのため、データや学説に基づいた議論ではなく、流域圏に住む市民目線でのびのびとした意見交換を行うことができました。また、異なる地域部会の参加者が集まっているため、これまで知ることのなかった各地域部会の情報共有の場にもなっています。これにより、流域を広い視点で捉えることのできる部会となりました。

今後の市民部会としては、各地域部会の話題や課題を拾い出し、課題解決に向けて、合同部会の開催の提言や各地域部会への情報発信を行う場としていきたいという意見でまとまりました。



## ◆ワークショップ ～意見のカテゴライズ～ の結果

「過去」は、ネコギギなどの生物が多く生息していたこと、湧水が多く場所で確認されていたことが良い点として挙げられましたが、生物の生息データの蓄積がないことが悪い点とされました。それに対して「現在」は、良い点として土砂災害の減少が挙げられており、これまでの災害対策の有効性について再確認できました。一方で、水質の悪化や水量の減少が悪い点として注目を集めていました。また、農林業の衰退も悪い点として挙げられており、後継者不足への対策が求められました。「将来」は、他の河川の流域住民との交流を深めていきたいという希望や、矢作ダム の必要性について再評価したいなどの将来的な活動を見据えた意見が並びました。



	過去	現在	将来
良い点	ネコギギ、カワセミ、シャコ、アサリが多く生息 湧水が多かった	土砂災害の減少 環境教育林の整備 郷土料理（アコ・自然薯）が食べられる 水源の清流で水と親しむ場が誕生	他の河川流域住民との交流 用水路・支川の利用方法の検討
	ヘドロの蓄積 生物の生息データの記録が乏しい	水量の減少 外来生物の増加 山の手入れ不足 農林業の衰退・後継者不足	矢作ダムを撤去したときのメリット・デメリット
悪い点		水質の悪化 獣害の増加 河原の樹林化・荒廃	

## ◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

### ●ワークショップ ～意見のカテゴライズ・標語の作成～

- 過去の良いところをそのまま今に生かせるわけではない。昔は不便な面もあり、昔の生活に戻っても何の意味もない。そのため、知恵を絞って過去の良いところを生かして、今にどうつなげるかを考えなくてはならない。（高橋）
  - ▶ そして、今の様々な活動が全て悪い影響を与えているかというところではない。（光岡）
  - ▶ 「時・水・人・恵み」が今の時代にどのようにつながっているのかを再認識し、新時代に向けた再構築を目指すべきである。（近藤）
- かつては湧水がいろんなところで出ていて、アコを育て、米を育て、魚介類を育てたのだと思う。（井上）
  - ▶ 川自体が良いと、流域の人たちは恵みを得ることができた。川に生かさせていただいたとすごく感じる。（沖）
- 豊田や岡崎は矢作川のおかげで産業が発展した。一方で、大きなダムがなかったら、豊田に大きな町をつくるのができなかった。いろんな視点から矢作川を考える必要がある。（高橋）
- 最近、矢作川流域懇談会の刺激が旧額田町に生かされるようになり、新しい会がいっぱいでき始めている。（沖）

### ●市民部会の9年間のまとめ・今後の体制について

- 市民部会が各地域部会に刺激を与えることができたか考えると、入り口に立ったくらいだと思う。今後は地域部会（山・川・海）に横串を刺せる存在となれたらいいと思う。（近藤）
- これまでは川部会のみに参加していたが、市民部会に参加することで広い場所からものを見ることができた。（加藤）
- 今年度の市民部会で矢作川の望ましい姿をイメージ化することができなかった。（光岡）
- 懇談会のメンバーが少なくなってきた。この理由も考えていかなければならない。（菅原）
- 市民部会でも泊りの研修などがあると面白いと思う。（加藤）
  - ▶ 市民部会の提案で合同部会やエクスカージョンを開催できたらいいと思う。（近藤）

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 合同部会 vol.1



発行日：平成 30 年 9 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 1 回合同部会を開催しました！

山部会では、山川海の相互理解を深めるために、研究データに基づく議論をしていこうという前向きな意見がでました。これをうけた形で合同部会を開催する運びとなりました。

議論の内容は、主に矢作川の水質について、科学的に研究をされている方々に講演をいただき、その研究結果をもとに山・川（里）・海の“民の知恵”の意見交換をしようというものです。

【日 程】H30 年 8 月 24 日（金）～25 日（土）

【場 所】合同部会：岡崎市宮崎学区市民ホーム  
エクスカージョン：岡崎市乙川・伊賀川

【参加人数】合同部会 45 名、エクスカージョン 24 名（事務局を含む）



## ◆講演内容について

### アサリはなぜ減少したのか？

『アサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例』

（名城大学大学院総合学術研究科 特任教授 鈴木輝明氏）

近年のアサリの漁獲量の減少原因は、矢作川流域下水道の稼働により、リン酸が過剰に除去され、餌である植物プランクトンが不足したためと考えられる。三河湾では過去に貧酸素水塊が問題となり、窒素とリン酸の排出規制が始まったが、水の過剰な浄化によって、海の生物に影響を与えている可能性が示された。



### シジミ、アサリを増やす森と里からの湧水

『農・林・水産部門技術士の継続研鑽から』

（伊勢・三河湾流域ネットワーク 共同代表世話人 井上祥一郎氏）

健全な森づくりは、ケイ酸が溶け込んだ湧水をはぐくむ。その結果、アサリにとって有益な餌料となるケイ藻が育つ。一方、フルボ酸鉄は植物プランクトン（ケイ藻など）の光合成に必須の物質であるが、水田（疑似湿地）からも供給される。森・里の恵みであるフルボ酸鉄・シリカについて、今後も研究を続けたいと考えている。



### 矢作川本川の水質と流域構造を知ろう！

『電気伝導率からみた矢作川本川の水質実態と流域構造の特徴』

（大同大学大学院 吉川慎平氏）

本調査は、流域の本川と支川の175箇所計測を行った。その結果、中流域では5～8mS/m、河口に近い西尾市においても10mS/mであり、平均的な河川水の値11mS/mと比べて低いことがわかった。要因として、流域の地質が花崗岩である、流域下水道の整備、土地利用の影響が及んでいないものと考えられる。



### 矢作川中流域の水質を知ろう！

『矢作川中流域の水質 水質の長期変動と他河川との比較』

（豊田市矢作川研究所 研究員 白金晶子氏の研究成果 事務局報告）

矢作川中流域において、経年的な調査を行った結果、以下の結果を得た。  
(1) 栄養塩類は減少傾向を示した。(2) 矢作川上流から下流に向け、栄養塩類は増加していた。(3) 流量が少ない時、植物プランクトンはダム湖で増加し、下流に向けて増加していた。(4) 明治用水頭首工周辺で取水により、下流の流量が減少、栄養塩、懸濁物質が増加し、巴川の合流で水が入れ替わっていた。

### 森林が変化すると水質はどう変化する？

『植生遷移に伴う水質の変化 一東大演習林における事例一』

（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 蔵治光一郎氏）

森林からの水質は、ほとんどの項目で良好であるが、色度だけが上限に達していた。これは、色素の原因物質フミン酸やフルボ酸などの有機酸が、保持できる限界を超えて流れ出しているものと推察される。これは、森林の富栄養化の兆しを示すものであり、未来において、山からの水が必ずしも良好な水質とは言えない可能性を示唆するものであった。



## ◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

### 《アサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例に対する質疑応答》

- ・ いくつか考えられる栄養塩類のうち、リンだけを対象としているのはなぜか。（蔵治）
  - ▶ 調査の結果、特に夏場においてリンが制限因子になっていること。また、矢作川浄化センターの排出規制が、窒素とリンを比べると、リンの方が圧倒的に制御しやすいためである。（鈴木）
- ・ 貧酸素塊の抑制と餌場の確保の両面から、今後どのようにリン酸を取り扱うべきか教えてほしい。（今村）
  - ▶ リン酸の削減は、確かに貧酸素塊の抑制につながる。ただし、それに伴ってイワシやアサリ等の魚介類が減少すると、それ自体は貧酸素塊を拡大する要因になってしまう。だから、生物資源を維持できる許容量を確保したうえで、排出規制を考える必要がある。（鈴木）

### 《農・林・水産部門技術士の継続研鑽からに対する質疑》

- ・ ケイ素というのは無機物質で、岩盤の鉱物から流れ出す物質であり、流域がはげ山であった時代には大量のケイ素が流出したと考えられる。流出量の大小は、森林管理の良し悪しで決まるものではないと考えられる。（蔵治）
- ・ 陸域由来のケイ酸態ケイ素は、三河湾の海中にも結構含まれるため、それが生物種の減少要因とはならない。（鈴木）

### 《電気伝導率からみた矢作川本川の水質実態と流域構造の特徴に対する質疑応答》

- ・ 電気伝導率を測定する目的、その結果が何に活用できるのか。（洲崎）
  - ▶ 矢作川の電気伝導率は低いといわれてきたが、事態はどうなのかを確認したかった。また、活用については生物学的な関係機関に活用していただきたいと考えている。（吉川）
- ・ 電気伝導率の値には、主にどんな物質が関わっているのか。また、土地利用とか地質による影響を確認したか。（清水）
  - ▶ 物質については分析をしていないためわからないが、河川水採取しているので、今後調べたい。また、土地利用と地質は関わりが深いものと考えている。（吉川）

### 《矢作川中流域の水質 水質の長期変動と他河川との比較に対する質疑応答》

- ・ ケイ素はダムで消費されていると考えられるが、なぜ河川水の分析項目にケイ素が含まれていないのか。（山本）
  - ▶ 矢作川研究所としては、水質においてケイ素はそれほど重要ではないと考えている。（洲崎）

### 《植生遷移に伴う水質の変化 一東大演習林における事例—に対する質疑応答》

- ・ 昨今、森林土壌が注目されているが、森林整備の中でフルボ酸、フミン酸の役割はどう評価されるのか。（今村）
  - ▶ それらが増加することは、土壌が形成されつつあることを意味している。水質の面では色度が上昇することは好ましくないが、それは人からみた評価であり、生態系としては望ましいことだと考えられる。（蔵治）
- ・ 植生遷移が水質に及ぼす影響を説明いただいたが、動物への影響は調査されているのか。（野田）
  - ▶ 動物では脊椎動物、鳥類、昆虫の3項目で調査が行われてきた。脊椎動物では、木の実の生産量と個体数の関係、鳥類では繁殖時期についてモニタリングを行っている。（蔵治）

## ◆総評

- ・ 人間は生活の便利さと引き換えに自然を壊してきた。生き物に目を向けることで、自然環境を変えられると思う。（石川）
- ・ 川部会では、これまで流量の確保、土砂移動、川の形状などを優先し、水質について議論を重ねてこなかった。今日の合同部会で、水質の重要性について再認識した。今後は、川部会でも取り上げたいと考えている。（内田）
- ・ 一言で「水」といっても、山川海それぞれの見方でずいぶん異なる。何かを立てれば、何かが犠牲になることも今日の議論でよくわかった。（鷺見）
- ・ 今日の報告には、流域下水道のデータがなかった。排出の規制量がわかれば、電気伝導率、中流域の水質の話、アサリの減少と海の栄養塩類の話につながった気がする。また、雨が降った時の栄養塩類の排出については、岡崎市でデータを取っている。どこかの機会で報告できたらと考えている。（蜂須賀）
- ・ 今日のような議論ができれば、水掛け論にならなくて済む。とても有意義な時間を過ごすことができた。（洲崎）

## ◆エクスカージョン

### ① 乙川

《岡崎市のかまちづくり》  
岡崎市乙川リバーフロント推進課の香村課長、浅井副課長より、QURUWA戦略（乙川と市街地の発展をめざした公民連携プロジェクト）をご紹介いただいた。



### ② 伊賀川

《愛知県多自然川づくり》  
愛知県河川課の川瀬主任主査より、平成20年8月豪雨を教訓とした多自然川づくりについて、実績と効果（特に河川構造と生物相への影響）をご紹介いただいた。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 流域連携 vol. 1



発行日：平成 30 年 5 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆流域圏担い手づくり事例集交流会 2018 を開催しました！

矢作川流域では、水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会山部会は、2013 年度から 4 年間かけ、矢作川流域で主として中山間地振興に携わる団体（一部川や海の活動団体を含む）の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」を 4 冊発行しました。

2017 年度には取材先として川や海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に関わる団体を増やし、5 冊目となる事例集を「流域圏担い手づくり事例集」として発行しました。これらの事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして、この交流会を開催しました。

日時：H30 年 4 月 14 日（土） 13:00～17:00  
場所：佐久島弁天サロン 寄り合いの間  
参加人数：25 名（事務局を含む）



## ◆交流会の活動報告と活動紹介について

### 1. 活動報告



#### ■矢作川水族館

矢作川水族館は、市民に矢作川の魅力を伝えることを目的として平成 19 年に発足しました。主な活動は、メンバーで撮影した魚（川）の写真を展示したり、軽トラの荷台に水槽を積んだりして、市民に矢作川の魅力を紹介しています。

私は矢作川漁業協同組合の組合員でもあるため、漁協の強みと弱みを知っています。漁協の役割には、水産物の供給といった本来の機能と川、魚、漁業に関わる啓発や教育といった多面的機能がありますが、成果（利益）が明確化しにくい多面的機能については、積極的な取り組みができていないのが現状です。そこで、「観光やな」や「子育て支援グループ」など漁協とは異なるネットワークを構築し、矢作川の魅力を発信しています。今後は、漁協の隣に肩をならべる組織を立ち上げ、多面的機能の充実をめざしたいと考えています。

#### ■新見克也さん



#### ■内藤連三氏

#### ■野田賢司さん（矢作川環境技術研究会）

内藤連三氏は、戦前に生まれ平成 14 年に 67 歳で亡くなりました。生涯矢作川の浄化（汚濁防止対策）に力を注がれた。4 大公害が騒がれた時代、この矢作川も例外ではなく、工場排水に加え、窯業や珪砂採掘による汚濁が激しくなりました。そんな中、下流の農業団体、漁業団体、自治体による「矢作川沿岸水質保全対策協議会（以後、矢水協）」が設立され、事務局長の内藤連三氏は開発工事に戦うこととなります。化学的根拠を示すなど、たゆみない努力の結果、矢作川流域の開発工事には、矢水協の同意書を許可条件とする「矢作川方式」が制度化されることになりました。まさに、内藤連三氏なくしては、矢作川の浄化は語れません。内藤連三氏の発言には実体験に基づくものであり説得力があります。今一度、流域圏懇談会として、その信念に敬意を表したいものです。



#### ■矢作川をきれいにする会

#### ■鈴木陽子さん（元会長）

矢作川をきれいにする会は、昭和 48 年に設立し、以来内藤連三さんとともに、ゴルフ場等の乱開発、工場排水の垂れ流しに対して運動を行ってきました。そこで芽生えた考えは、矢作川の上流と下流は運命共同体ということです。上流が下流を、下流が上流を思いやれば、おのずと行動が変わってくるものです。昭和 52 年、西尾市は上流の明智町と姉妹提携を結びました。現在では、石川組合長のお力により、上流の平谷、串原、根羽の小学生が潮干狩りを体験することで環境に対する意識を養っています。今後とも流域の関係者の努力で、矢作川がより美しくなることを期待しています。



### ■東播豆漁業協同組合

石川金夫さん（組合長）

私は、漁業の傍ら「矢作川をきれいにする会」の活動を引き継いだ活動を行っています。以前の矢作川はとても汚い川でしたが、現在では厳しい基準のもとできれいになりました。そのため、小さな水質保全委員会を漁協内で創設し、流域内の企業を巡回しています。現在、三河湾では漁業者の高齢化に追い打ちをかけるように、貧酸素水塊等による漁獲量の減少が大きな問題となっています。特に、この5年でアサリがほとんど捕れなくなりました。要因は栄養塩類や土砂の流れ込みの減少等、さまざまだと思いますが、このままでは漁業の担い手が失われてしまいます。この危機的な状況を解決するため、山や川の皆さんのお力添えをお願いいたします。

### ■有限会社オフィス・マッチング・モウル 内藤美和さん(代表取締役) 池田ちかさん(取締役)

私たちは芸術文化を企画する会社で、平成13年に当時の一色町役場（現西尾市）の委託で佐久島にアートプロジェクトを立ち上げました。当時はブログやSNS等のない時代でしたので、どのようにこの島をアートで売っていくかと悩みました。ところが、時の建設省の幹部の方に「素敵なものを見つけている私を見て！」という時代が間もなく来るぞという助言をいただいたのです。そこで私たちは、ターゲットを都市部の若い女性にしました。当初は周囲から批判も受けましたが、若い女性が集まれば、若い男性も来ますし、若い人が多く集まれば、結局すべての世代が島を訪れると考えました。そして、私たちの予想は見事に当たりました。若い人たちのネットを使った拡散が、多くの若者をこの島に呼び寄せています。

佐久島は観光の島でありながら、地図がなかった。私たちは18年かけて、歴史やアートを結びつけた佐久島体験マップを作成しました。現在、アートピクニックあるいは弘法めぐりを進めており、観光客向けの講座やワークショップも開催しています。

### ■島を美しくする会

鈴木喜代司さん（会長）

この事業を始めるきっかけは、平成5年に国が立ち上げたモデル事業にこの島が選定されたことにあります。しかし、当時は、一色はもとより愛知県にもアートという概念はありませんでした。アートを島の老人に説明する。地獄のような3年間でした。そんな中、オフィス・マッチング・モウルの内藤さんに出会いました。最初はアートだけが先行して、島民は置き去りでしたが、次第に島民もアートの必要性を感じ、ゼロから学びたいと動き出しました。今では、我々と行政（振興課）と島民の3者が話し合い、島の活動を決定しています。

この島を、アートの島と定着させるまでには、情報発信の面でも大変苦労しました。今では、SNSによる拡散もさることながら、年間60～80社のテレビ局や出版社が宣伝してくれるようになりました。今後とも、島を訪れる人々が増えるよう努力したいと思っております。



### ～さくしま陽春のエコツアー～

事例集交流会の翌日(15日)、野田賢司さんご指導のもと佐久島の中央(中央の河川流域)～西部(石垣海岸～白浜海岸)を歩きながら水文、水質、生物の項目を簡易的な方法で調査を行いました。水文調査では、「流域ものさし」や「流域ふるしき」といった流域圏懇談会において、共通の認識となったツールを使用して、流水部の水深や流速を計測しました。今回のエコツアーを通して、これまで知らなかった佐久島を学ぶことができました。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、係長 服部  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 流域連携 vol.2



発行日：平成 30 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 10 回矢作川感謝祭に参加しました！

矢作川感謝祭は、「矢作川天然鮎感謝祭」と「矢作川さかな釣り大会」の同時開催によって 2014 年に誕生した川のお祭りです。今年はリニューアルされて 4 回目の年にあたりますが、年々大きな祭りへと進化しています。矢作川流域圏懇談会としての参加は 2 年目となり、山からは流域のすべての森林組合が、また、今年は海から東幡豆漁業協同組合が初めて参加しました。川を中心としたお祭りに、山の木のおもちゃと海の生き物がお目見えし、一般市民の方々への発信の場として、とても有意義なイベントにすることができました。



流域の森林組合(根羽・恵南・豊田・岡崎) 集合写真

日程：H30 年 9 月 1 日(土)～2 日(日)  
場所：豊田市千石公園(豊田大橋下)  
参加人数：16 名(事務局を含む)

## ◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

### 1. イベントの目的と内容(矢作川感謝祭 HP より)



#### ■矢作川感謝祭の開催目的

矢作川は本川に 7 つのダムを持ち、都市住民の生活、農業、工業などに徹底使用された過酷な環境の川である。しかし、矢作川は流域の人々の生活を支え、うるおいや安らぎを与えるとともに、アユやウナギなどの回遊魚をはじめ多くの生きものを育んでいる。流域での人々の暮らしや生き物の生命を根底で支えている命の水の循環は、森、川、海にあります。

委員会は、矢作川流域の課題を今一度再認識するとともに、矢作川流域の自然の恩恵にあらためて感謝し、その実力と魅力を多くの人々に伝え、共感と行動へとつながることを目的とする。

#### ■主なイベント内容

- ◇矢作川音楽祭(前夜祭)
- ◇さかな釣り大会、釣り教室、川あそび大会、アユ釣り大会
- ◇水辺コンサート：岡森フォレストーズ、うたれんの演奏 ほか
- ◇矢作川きりぎり祭り：チェーンソー・高性能林業機械による実演
- ◇リバーパーティー：アユの塩焼き、五平餅、カフェなどの飲食ブース、木のおもちゃ、矢作川水族館、海の生き物展などの体験ブースが出演。



### 2. 矢作川流域圏懇談会 出展状況



流域一体化をめざし、以下の内容で参加しました。

#### ■東幡豆漁業協同組合

～海の生き物の展示～

生きている海の生き物を直接触って、学ぶ、小さな海を設置しました！

#### ■根羽村森林組合

～動く木のおもちゃの展示(プレイスメイキング)～

上流の村から、「見て・触れて・感じて・楽しむ」移動大型遊具を設置しました！

#### ■豊田森林組合

～高性能林業機械の展示・新割り体験～

チェーンソーや高性能林業機械を駆使したプロの凄ワザ(枝払い・玉切りの実演)を披露しました！

#### ■岡森フォレストーズ

～岡崎森林組合職員で結成されたバンド、本イベントの盛り上げ役～

キャッチフレーズは、「岡森フォレストーズの音楽は、山で強く伸びる松、まっすぐ育つ杉、愉しく暮らすカメムシだ！」



### 3. 矢作川感謝祭の開催風景



矢作川音楽祭



薪割り体験



流域の幸の出店



魚釣り大会



矢作川水族館



懇談会発信基地

#### 【矢作川感謝祭を通じて感じた事】

##### ◆よかったと思うこと

- ・矢作川流域の4つの森林組合が団結して林業や木の魅力を伝えられた。
- ・山・川・海の各団体が集合した大きなイベントを開催することができた。
- ・過去最大規模の来場者が見られ、活気があった。
- ・橋の下であるため、急な雨にも対応しやすい環境であった。

##### ◆改善してほしいこと

- ・矢作川流域圏懇談会のブースの位置が奥まったところにあり、来場者の目に留まりにくかったのではないかと心配になった。
- ・大きなイベントとなってきたので、マスコミの取材などが多くなるとよいと感じた。
- ・矢作川を軸として、山・川・海がどのような関係でつながっているのか、もう少し詳しく説明する時間があれば、矢作川の素晴らしさを参加者が理解することができたのではないと思った。

##### ◆今後に向けた進め方の提案

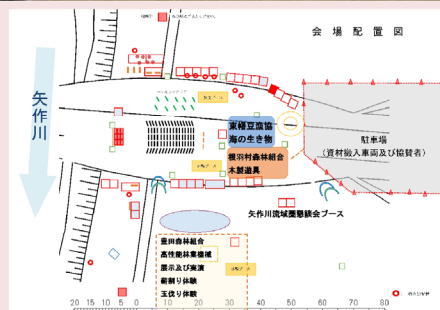
- ・根羽村森林組合では、以下のワークショップを開催することでイベントに協力できる。

①ペンダントづくり ②表札づくり ③弓矢づくり ④木箱づくり ⑤わっぱ弁当箱づくり

- ・矢作川流域圏懇談会と地域住民との重要な触れ合いの場であり、新たな参加者を引き込む工夫を検討したい。

##### ◆その他（質問・感想など）

- ・今後も矢作川感謝祭を継続して開催してほしい。



#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 流域連携 vol.3



発行日：平成 30 年 11 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 5 回三河湾大感謝祭に参加しました！

三河湾大感謝祭は、多くの人々に三河湾への関心を持ってもらうことを目的として愛知県が主催したイベントです。昨年は、悪天候に見舞われ中止となりましたが、今年は一日中晴天に恵まれ、多くの参加者でにぎわいました。矢作川流域圏懇談会は、各部会の懇談会通信の掲示や根羽村森林組合による「木に触れて楽しむブース」を出展しました。また、名鉄西尾・蒲郡線利用促進大会と第 14 回くらふとフェア蒲郡 2018 が近接した蒲郡市民会館やその周辺で開催され、それぞれの会場を巡るスタンプラリーを実施されるなど、それぞれが連携した大きなイベントとなりました。

日程：H30 年 10 月 28 日（日） 10：00～16：00  
場所：蒲郡市民会館  
参加人数：14 名（事務局を含む）



## ◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

### 1. 目的とイベントの内容

#### ■目的（テーマ）

多くの人に三河湾への関心をもってもらうことを目的としており、三河湾の環境再生に繋げるクラブの自主企画や、クラブと上流域で活動する団体との交流をテーマにしています。

#### ■主なイベント内容

- ◇環境トークショー（ゲスト：元シンクロナイズドスイミング日本代表 青木愛さん）
- ◇三河湾環境再生パートナーシップ・クラブと上流で活動する団体によるシンポジウム
- ◇アイドル教室によるステージとクイズ大会 ◇会場内を巡るクイズラリー
- ◇海の生きもののロボットの実演（海洋楽研究所） ◇海の生きものの展示（愛知県水産試験場）



矢作川懇談会のブース内の様子



愛知県知事が  
流域圏懇談会の  
ブースを  
訪問しました！！

知事のツイッター投稿（[https://twitter.com/ohmura\\_hideaki](https://twitter.com/ohmura_hideaki)）より



海洋楽研究所のブース



中部 ESD 拠点協議会のブース

### 2. 矢作川流域圏懇談会・関係団体 出展状況



#### ■根羽村森林組合

～動く木のおもちゃの展示（プレイスメイキング）と木工体験～

三河湾につながる上流の山村から、「見て・触れて・感じて・楽しむ」移動大型遊具を設置しました。また、根羽ノギを用いたペンダントづくりと竹を使った弓矢づくりを実施しました。

#### ■中部ESD拠点協議会

～海とのお約束と缶バッジづくり～

海を大切にするために、日常生活の中で取り組みたいことを約束していただきました。その方々にSDGs（持続可能な開発目標）に関する缶バッジを作成しました。

#### ■島を美しくつくる会

～佐久島の素材を使ったワークショップ～

佐久島の魅力を発信するために、パンフレットの配布やパネルによる紹介を行いました。

#### ■国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所

～三河湾とシーブルー事業の紹介～

海に堆積したヘドロの表面を良質の砂で覆うことで汚染物質が海中に溶け出すことを抑え、水質の改善を図るシーブルー事業の紹介を行いました。



島を美しくつくる会のブース



三河港湾事務所のブース



### 3. 三河湾大感謝祭の開催風景



矢作川流域圏懇談会ブース



弓矢づくり



海の生きものの展示



木のおもちゃの展示



根羽スギのペンダントづくり



海の生きものロボットの实演



#### ■矢作川流域圏懇談会が参加した意義

三河湾に限定せず、そこにつながる川、上流域の山の重要性を多く的一般の方々に感じてもらい、「流域はひとつ」という意識の向上を目的として参加しました。山・川・海の各部会のWGの実施状況を掲載するとともに、特に木のおもちゃや根羽スギを利用した工作の体験を通して、上流域にある山の情報発信に努めました。

#### ■三河湾大感謝祭を通じて感じた事

##### 【よかったと思うこと】

- 普段の生活では気づきにくい海と山との関係性について考える場として、矢作川流域圏懇談会のブースはとても大きな役割を果たしていた。
- 数多くの協力団体が参加しており、佐久島や根羽村をはじめ多彩な地域や分野の参加があった。

##### 【改善してほしいこと】

- 弓矢の射的は他の来場者に矢が当たらないよう、的の後方の防護壁をもう少し大きくした方が良いかもしれない。
- くらふとフェア蒲郡2018にはかなり多くの人出があり、その放送でも三河湾大感謝祭の紹介をしていたが、こちらへの人の流れはいまひとつ少なかったように思う。

##### 【今後に向けた進め方の提案】

- 複数のイベントを同じ日に開催するのであれば、両会場を隔てている道路の渡り方や、表示案内あるいは三河湾大感謝祭の入口に少し派手なディスプレイをするなど、隣のイベントに参加している人の目を引くような仕掛けがあってもよいのではないと思った。

##### 【その他 | 質問・感想など】

- 矢作川感謝祭など多くのイベントにおいても他のイベントと同時開催することで、新規の参加者を取り込めるのではないかと思う。

#### ■愛知県から感謝状をいただきました！！

愛知県では「三河湾環境再生プロジェクト」として、三河湾の環境再生に向けた取り組みを行っています。矢作川懇談会の参加は、三河湾につながる山や川を含めた環境の再生への意識向上に大きな役割を果たしたと考えられます。

#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。

# 市民部会の設立 10 年目の活動計画

## 1. 今年度の活動目標

今年度は、地域部会（山・川・海）に横串を通す存在となることを目標として、懇談会内の情報の共有と発信を行う。

## 2. 具体的な活動

- ・各地域部会の話題や課題の拾い出し
- ・各地域部会への情報発信
- ・懇談会内の課題解決に向けた合同部会や泊りの研修、エクスカージョンの開催の提言